

主任教授からのメッセージ

放射線科は医師のキャリア形成において男女差の最も少ない診療科です。出産育児の時期は自宅にて遠隔診断が可能で、休職からの職場復帰についてもハードルは低いです。実際に附属病院放射線科では常勤医師のうち5名(1/3)が女性です。子育ての時期に急な休みが必要な場合でも、医局員全員で対応しています。さらに放射線科の特徴は診療業務が多彩で、将来の専門を選ぶ上で選択肢の幅が広いことが挙げられます。患者様と直接接する医療を希望する先生は放射線治療やIVRを選択し、デスクワークが得意な先生は画像診断や核医学を選択することができます。この選択肢の広さも女性医師にとっての利点のひとつです。このように放射線科は女性にとって働きやすい職場であることは想像に難しくないと思います。

○ 診療科の特徴

放射線診療は、専門性が高い上、力仕事が多くなく体力的なハンディがない、緊急コールや病棟管理がない病院が多く、画像診断では在宅という就業形態も選択可能など、女性医師が働き続けやすい診療科です。

○ 診療科で働く女性医師

当講座では女性医師が11名、在籍しています。放射線科の魅力としては、画像診断や放射線治療、IVRといった多様な仕事があり、各部門に女性医師が活躍しています。加えて、全国的に遠隔画像診断システムを取り入れた在宅勤務の導入が進んでおり、当講座でも、さらに柔軟性の高い働き方を目指しています。当科でも多様な働き方をしている女性医師がいて、それぞれの目標を持ってキャリアと家庭の両立に日々取り組んでいます。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

離職前の状況やブランクの期間により個々の状況で異なりますが、専門医取得前であれば専門医プログラムに応じたローテートを行ってまいります。また専門医取得後であれば、希望に応じた領域で、複数の指導医の元で、感覚が戻るまで研修を行っていただきます。

○ 研修内容

専門医プログラム（3年間）

	画像診断	核医学	IVR	放射線治療
大学（2年間）	最短3か月	最短3か月	最短3か月	最短3か月
修練機関病院（1年）	関西医科大学総合医療センター、香里病院、石切生喜病院、泉尾病院			

専門医取得後

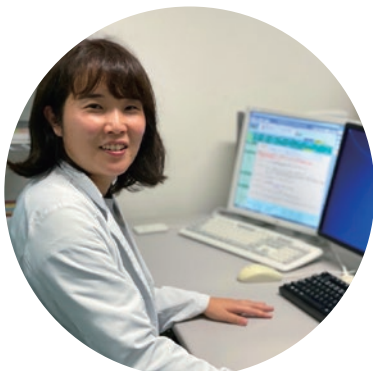
指導医の元で、1-3か月程度の研修後（各個人の状況に応じて調整します。）に独り立ちしてまいります。その後もいつでも相談できる体制が整っています。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性医師は修練期間とライフステージの変化が集中する期間が重なってしまい、悩む先生方が多いかと思います。私もまさに、遅めですが一昨年に結婚し、ライフステージが変わっており、様々なことを考えねばならない時期です。とはいえ、一人ではなく、たくさんの先輩や後輩にアドバイスをいただき乗り越えており、支援担当医の立場ながら、むしろ女性医師支援は我が事のように感じており、取り組んでいくつもりです。女性だけでなく男性も、若手もベテランも、みんなが楽しく働ける環境を作っていきます。一緒に頑張りましょう！

復帰した医師の声

体験談 (A 先生：放射線診断医)



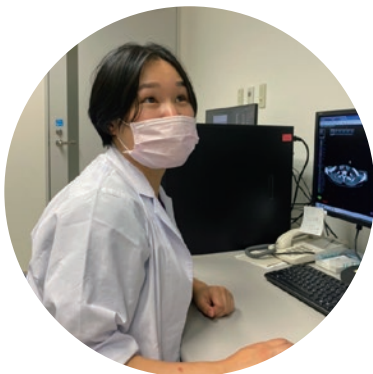
私は二人目を出産時に1年の育休をいただきました。産後1か月は神経内科に所属する夫も育休を取って協力をしてくれました。1年間は完全に子育てに専念し、職場はたまに顔を出す程度でした。ブランクがある中でも復帰後は、他の先生たちが温かく迎えてくださり、現在は女性医師支援制度を利用し、週2回の短時間勤務をしています。復帰直後は、以前まで簡単に読影できていた疾患を忘れており、3か月ほどはくずれたパズルのピースを何枚もつなげるような作業でした。しかし、先輩の先生たちが丁寧に教えてくださり、自分でもう一度勉強し直したりすることで、以前よりも所見を書くことが楽しくなるまでになり、今年度は二次専門医である診断専門医試験にも合格することができました。これからも

経験を積むことで臨床の先生たちや患者さまの役に立てるよう、引き続き、がんばりたいと思います。当科の良いところは身近に相談に乗ってくれる先輩がたくさんいることです。とても親身になってくれます。

体験談 (B 先生：放射線診断医)

私は11年前に出産後、1年間の育児休暇を取得し、その後復職しました。週2日9:30-14:00の勤務でした。1年弱働き、第二子出産のため産休に入りました。出産後は再び1年間の育児休暇を取得し、その後復職しました。第1子出産後と同じ勤務条件でした。子供が小さいうちは、帰宅後の夕食作りや子供の相手でバタバタするので、時短制度が助かりました。現在は子供が小学生で、週1日の非常勤勤務をしております。様々な勤務形態を選択させていただける環境なので、助かっております。

体験談 (C 先生：放射線治療医)



私は2年前に一人目を出産し、現在二人目を妊娠中です。一人目を出産後は週1～2回ほどの勤務から始め、生後7か月ごろからフルタイム勤務を継続中です。子供の体調により急な早退や欠勤がありますが、周りの先生たちが柔軟に対応してくれており、大変助かっております。その分働ける時間は可能な限りチームの一人として活躍できるよう、積極的に臨床に参加するようにしています。専門医取得前の出産となり不安はありましたが、体力がそこまで必要ない分早くから復帰でき、あまりブランクを感じることなく、無事に放射線科専門医も取得することができました。二人目出産後もより忙しくはなるとは思いますが、同様にフルタイム勤務で続けていきたいと思っています！



● 講座ホームページ 関西医科大学 放射線科学講座 <http://www3.kmu.ac.jp/radiol/>